

イスラームの倫理システム（パート1/2）：倫理性の基準

説明： イスラームにおける倫理概念の根本となっている基礎に関して。

より iiie.net

掲載日時 07 Mar 2011 - 編集日時 04 Aug 2013

カテゴリ： [記事](#) > [崇拜行為とその実践](#) > [イスラーム的モラルと習慣](#)

イスラームは全人類のために、いかなる状況においても施行され尊重されるべきとされる、いくつかの普遍的な基本的権利を定めています。そしてこれらの権利を遂行するため、イスラームは法的な予防手段だけでなく、非常に効果的な倫理システムを提供しています。それゆえ、イスラームにおいて個人的・社会的福利へと導く全てのものは倫理的に善であり、全ての有害なものは倫理的に悪なのです。イスラームは神への愛と人間への愛に非常な重要性を置いているのであり、過度の形式主義に対しては警告を放っています。クルアーンには、次のような件があります：



「敬虔さや信仰とは、ただあなた方の顔を東や西に向けること（礼拝の動作や方角のこと）だけではない。しかし（真の）敬虔さや信仰とは、神と最後の日、天使と啓典と諸使徒を信ずる者の（それ）。また近親の者や孤児、困窮者や旅人、物乞いや奴隷の解放ゆえに喜んで財を施す者（のそれ）。そしてサラー（礼拝）を遵守し、ザカー（義務の浄財）を拠出する者（のそれ）。また契約を守る者たち（のそれ）。あるいは困窮や病、戦いにおいて忍耐強い者たち（のそれ）。このような者たちこそは、（信仰を）正直に実行する者たち。そしてこのような者たちこそは、敬虔な者たちである。」（クルアーン 2：177）

私たちは上記の節において、廉直で敬虔な人間に関する素晴らしい描写を見ます。そういった人物は有益な規則に服従するべきだけなのではなく、神への愛とその同胞への愛にこそ注視しているべきなのです。

私たちは件の節から、以下の4つの指示を汲み取ることが出来ます：

- 1) 私たちの信仰は純粹、かつ真摯なものであるべきである。
- 2) 私たちはそれを、同胞に対し慈善行為という形において示す用意が出来ていなければならない。
- 3) 私たちは社会組織を援助する、よき市民であらなければならない。
- 4) 私たち個人の魂はいかなる状況下にあっても、堅固でゆるぎないものでなければならない。

これこそが、何らかの行動規範が判断され、善悪の判別をされることの基準なのです。この判断基準は、全ての倫理的品行に関連する事象を包括する中核を提供します。イスラーム

ムはいかなる倫理的指導を施す際にも、まず神が人の行いと共にあるという確信を、人の心の中に堅く植えつけることに尽力します。神はいつでも人をご覧になられるのであり、人は全世界から身を隠すことは出来ても、神から隠れることは出来ないのです。また人は全人を騙すことは出来ても、神を騙すことは出来ませんし、人の支配から逃れることは出来ても、神のそれから逃れることは出来ません。

このように神のご満足を人生の目的と据え置くことにより、イスラームは可能な限り最高の倫理基準を設えるのです。そしてこのことは人類の倫理的発展に対し、終わりのない路線を提供します。また神の啓示を知識の第一の源泉とすることで、倒錯や野性的変種、原子論的な相対主義や道徳的流動性などではなく、真の調整と適応、革新に対して合理的許容性のある倫理基準に、永久性と安定性を与えるのです。また神に対する愛情と恐れにおける倫理性に対し、外圧なしでも人を倫理律に従わせる拘束力をも提供します。イスラームは神と最後の審判の日への信仰を通して、人が心と魂による全ての献身と真面目さと誠実さでもって、倫理律を受容するある種の力を提供しているのです。

イスラームの倫理基準は、独創性と革新という誤った感覚によって、いかなる新しい倫理的美徳も提供することはありません。またよく知られた倫理基準の重要性の矮小化に努めることもなければ、理由もなくある倫理基準に過度の重要性を与えたり、また別のものを怠ったりすることもあります。イスラームの倫理基準は一般に知られた全ての倫理的美徳を採用し、バランスと均整のとれた感覚でもって、その各々に人生のあらゆる場面における適切な地位と機能を割り当ててののです。またイスラームの倫理基準は、人の個性と総体的な人生 家庭的関係や市民的品行、政治的 経済的 法的 教育的 社会的領域における活動の範囲を広範化してくれます。またそれは人の人生を、家庭から社会、食卓から戦場、平和会議に至るまで、文字通り揺りかごから墓場まで網羅するのです。要するに、人生のいかなる側面においても、イスラームの倫理的原則の一般的かつ包括的適用から免れているものなどありません。それは倫理性の君臨を最高位のものとし、人生の諸事が利己的な欲求と些細な私利によって支配される代わりに、倫理的基準によって規則立ったものとなることを保証するのです。

またイスラームの倫理基準は、全ての善に基づき、全ての悪とは無縁であるような人生のシステムを人間に保証します。そして人々に美徳の実践だけでなく、美徳の確立と悪徳の根絶、善の勧めと悪の禁止をも奨励するのです。またイスラームの倫理基準は、人の良心の評決が勝利することを望んでおり、美徳は悪に対する脇役を務めるために控えていなければなりません。そしてこの呼びかけに呼応する人々は一つの共同体と見なされ、「ムスリム（イスラーム教徒）」という名を与えられます。そしてこの共同体（ウンマ）の編成の基礎を成している類まれな目標こそは、善を確立すると共に実践し、かつ悪を抑制すると共に根絶するための組織化された努力をすべきであるということなのです。

ここではムスリムの人生の様々な側面における、イスラームの倫理的教えの基礎の一部をご覧頂きました。それはムスリムの社会的責任だけでなく、個人的な倫理的品行の広域に渡る範囲を網羅しています。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1174>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.